

海外で学ぶ薬学 (自由科目)

自由科目 目次

海外で学ぶ薬学（米国 ピッツバーグ）	301
海外で学ぶ薬学（米国 ハワイ）	303
海外で学ぶ薬学（タイ）	305
海外で学ぶ薬学（台湾）	307
海外で学ぶ薬学（韓国）	309

海外で学ぶ薬学(米国 ピッツバーグ)

自由科目	薬科学科	1～4年次 後期	1 単位
吉田 林(講師)	村田 実希郎(准教授)	Khalid Kamal(デューク大学准教授)	定本 清美(教授)

授業形式

C 実習型

評価方法

海外観察記録(80%)、レポート(20%)により総合的に評価する。

テキスト

現地で必要教材・資料を配布。

参考文献

オフィスアワー(授業相談)

吉田(病態生理学研究室:E42):木曜日・金曜日:12:15～12:45

村田実希郎(薬剤学研究室:C43):月曜日12:15～13:00

定本(薬理学研究室:C42):水曜日・金曜日:12:15～12:45

学生へのメッセージ

アメリカのデューク大学で英語を使って薬学を学ぶ研修です。他国の薬学制度を知ることは、日本の薬剤師の立ち位置を知ることにつながります。他国の薬学、言語、文化に接する貴重な海外体験の機会です。

授業概要(教育目的・GIO)

アメリカ、ペンシルバニア州ピッツバーグのデューク大学で、薬学の講義・実習・説明を受けるプログラムです。世界の薬学制度と薬剤師の役割を学ぶことにより、自国の薬学と薬剤師の在り方を考え、将来に生かすことを目的としています。

現地では大学で英語で授業・実習・説明を受けるほか、研究室・病院・薬局など、滞在国の薬学を体感できる見学等が組まれています(授業計画表の授業内容は順番が変わることがあります)。語学と薬学を学ぶ、文化に触れる、人と交流するなどさまざまな活動が詰まった内容です。

別途、旅費・宿泊費等がかかります。

学習目標(到達目標・SBOs)

番号	内容
1	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
2	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
3	人・社会の視点から薬を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。
4	英語で薬学を理解することができる。
5	米国の薬学について英語／中国語で理解し、質問ができる。
6	英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
7	英語での指示を理解し、的確に対応することができる。
8	自分の意見を英語で表現することができる。
9	英語で必要な情報を集め、目的を遂行することができる。
10	米国と日本の医療保険制度の大まかな違いについて述べるることができる。

11	世界の医療事情を鑑みて、将来の薬学が果たす役割について討議する。
12	グローバルな視点で薬学を捉えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	学習目標番号
1	Khalid Kamal	英語による薬学講義1	Healthcare System / Pharmacological studies / Diseases	1～12
2	Khalid Kamal	英語による薬学講義2	Healthcare System / Pharmacological studies / Diseases	1～12
3	Khalid Kamal	英語による薬学講義3	Healthcare System / Pharmacological studies / Diseases	1～12
4	Khalid Kamal	英語による薬学講義4	Healthcare System / Pharmacological studies / Diseases	1～12
5	Khalid Kamal	英語による薬学講義5	Healthcare System / Pharmacological studies / Diseases	1～12
6	Khalid Kamal	英語による薬学実習1	Compounding Lab/Physical Assessment Lab / Immunization	1～12
7	Khalid Kamal	英語による薬学実習2	Compounding Lab/Physical Assessment Lab / Immunization	1～12
8	Khalid Kamal	薬学関連施設訪問1	Visit to Labs / Hospital/ Pharmacy	1～12
9	Khalid Kamal	薬学関連施設訪問2	Visit to Labs / Hospital/ Pharmacy	1～12
10	Khalid Kamal	薬学関連施設訪問3	Visit to Labs / Hospital/ Pharmacy	1～12

海外で学ぶ薬学(米国 ハワイ)

自由科目	薬科学科	1～4年次 前期	1 単位
千葉 康司(教授)、北川 康行(教授)、吉門 崇(講師)			

授業形式

C 実習型

評価方法

海外観察記録(80%)、レポート(20%)により総合的に評価する。

テキスト

現地で必要教材・資料を配布。

参考文献

オフィスアワー(授業相談)

千葉 康司・吉門 崇(臨床薬理学研究室:D41)および北川 康行(C23):研修前後の1ヶ月間、火水の16-18時

学生へのメッセージ

英語を使って薬学、伝統医学、医療実態、文化を学ぶ研修です。他国の薬学、伝統医学、医療実態、文化を知ること、将来世界における日本の薬学研究者の立ち位置が理解でき、海外交流に活躍できるグローバルな研究者として活躍できます。他国の薬学、医療、言語、文化に接する貴重な海外学習に、積極的に参加して下さい。

授業概要(教育目的・GIO)

米国のハワイ大学薬学部で、薬学、米国の医療制度とその実態、文化などの講義・実習・説明を受けるプログラムです。自国の薬学、医療制度とその実態、文化と研究者の在り方を考え、将来に生かすことを目的としています。現地では大学で英語で授業・実習・説明を受けるほか、研究室・病院・薬局、文化施設など、滞在国の薬学、医療実態、文化を体感できる見学等が組まれています。別途、旅費・宿泊費等がかかります。

学習目標(到達目標・SBOs)

番号	内容
1	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
2	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)
3	人・社会の視点から創薬を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)
4	英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化を理解することができる。
5	米国、特にハワイ州の薬学、医療実態、文化について英語で理解し、質問ができる。
6	英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
7	英語での指示を理解し、的確に対応することができる。
8	自分の意見を英語で表現することができる。
9	英語で必要な情報を集め、目的を遂行することができる。
10	米国と日本の医療保険制度の大まかな違いについて述べることができる。
11	米国、特にハワイ州における薬局の機能と業務について例をあげて説明することができる。
12	米国、特にハワイ州での薬学研究者の役割について例をあげて説明することができる。
13	世界の医療事情を鑑みて、将来の薬学が果たす役割について討議する。
14	グローバルな視点で薬学を捉えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	学習目標番号
1	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイ研修事前学習1	事前に米国の医療実態、文化、研究者教育について学習。	1～14
2	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイ研修事前学習2	事前に米国の医療実態、文化、研究者教育について学習。	1～14
3	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習1	受入大学にて現地にて英語で薬学、医療実態、文化、研究施設の講義	1～14
4	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習2	受入大学にて現地にて英語で薬学、医療実態、文化、大学院制度の講義	1～14
5	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習3	受入大学の学内見学、関連施設の博物館、附属病医などの見学研修。	1～14
6	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習4	受入れ大学のハワイ風土病の研究施設見学研修。	1～14
7	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習5	大学外の高齢者医療施設の見学研修と認知症に対する創薬への期待について研修。	1～14
8	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習6	大学外の医療施設(内科)における製造販売後の情報提供・収集について見学。	1～14
9	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習7	受入大学の薬学生と、日米における薬学、医療実態、治験体制、文化の比較に関するSGD。	1～14
10	千葉 康司、 北川 康行、 吉門 崇	米国ハワイの薬学、医療実態、文化学習8	米国ハワイ研修終了後、米国の薬学、医療実態、治験体制、文化に関するSGD。	1～14

海外で学ぶ薬学(タイ)

自由科目	薬科学科	1～4年次 後期	1 単位
定本 清美(教授) 梅原 薫(准教授)			

授業形式

C 実習型

評価方法

海外観察記録(80%)、レポート(20%)により総合的に評価する。

テキスト

伝統医薬学、現地で必要教材・資料を配布。

参考文献

オフィスアワー(授業相談)

定本(薬理学研究室:E43)、梅原(漢方天然物化学研究室:E31):研修前後の1ヶ月間、水金の16-18時

学生へのメッセージ

英語を使って薬学、伝統医学、医療実態、文化を学ぶ研修です。他国の薬学、伝統医学、医療実態、文化を知ること、将来世界における日本の薬剤師の立ち位置が理解でき、海外交流に活躍できるグローバルな薬剤師として活躍できます。他国の薬学、医療、言語、文化に接する貴重な海外学習に、積極的に参加して下さい。

授業概要(教育目的・GIO)

タイ国のワライラック大学(WU)で、薬学、伝統医学、医療実態、文化などの講義・実習・説明を受けるプログラムです。自国の薬学、伝統医学、医療実態、文化と薬剤師の在り方を考え、将来に生かすことを目的としています。現地では大学で英語で授業・実習・説明を受けるほか、研究室・病院・薬局、文化施設など、滞在国の薬学、伝統医学、医療実態、文化を体感できる実習や見学等が組まれています。別途、旅費・宿泊費等がかかります。

学習目標(到達目標・SBOs)

番号	内容
1	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
2	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)
3	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)
4	英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化を理解することができる。
5	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化について韓国語／英語で理解し、質問ができる。
6	英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
7	韓国語／英語での指示を理解し、的確に対応することができる。
8	自分の意見を英語で表現することができる。
9	英語で必要な情報を集め、目的を遂行することができる。
10	タイと日本の医療保険制度の大まかな違いについて述べるができる。
11	タイの地域における薬局の機能と業務について例をあげて説明することができる。
12	タイでの薬剤師の役割について例をあげて説明することができる。
13	世界の医療事情を鑑みて、将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。
14	グローバルな視点で薬学を捉えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	学習目標番号
1	梅原 薫	英語による薬学講義と演習1	ワライラック大学(WU)にて英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化の講義	1～14

自由科目

2	梅原 薫	英語による薬学講義と演習2	WU にて英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化の講義	1～14
3	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習1	WU の学内見学、関連施設の博物館、附属病院などの見学研修。	1～14
4	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習2	WU の学内見学、関連施設の博物館、附属病院などの見学研修。	1～14
5	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習3	WU にて薬学実習	1～14
6	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習4	学外の地域薬局、ドラッグストア等見学研修。	1～14
7	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習5	WU の伝統医療施設見学研修。	1～14
8	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習6	WU の伝統医療施設見学研修。	1～14
9	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習7	WU の学生と、日タイにおける薬学、伝統医学、医療実態、文化の比較に関するSGD。	1～14
10	梅原 薫	タイの薬学、伝統医学、医療実態、文化学習8	研修報告	1～14

海外で学ぶ薬学(台湾)

自由科目	薬科学科	1～4年次 後期	1 単位
喻 静(准教授) 定本 清美(教授) 亀卦川 真美(助教)			

授業形式

C 実習型

評価方法

海外観察記録(80%)、レポート(20%)により総合的に評価する。

テキスト

現地で必要教材(中国語教科書)・資料を配布。

参考文献

オフィスアワー(授業相談)

定本(薬理学研究室:C42): 金曜日:12:15～12:45

喻(漢方薬物学研究室:E43): 研修前後の1ヶ月間 金曜日:12:15～12:45

亀卦川(漢方薬物学研究室:E43): 研修前後の1ヶ月間 月曜日:12:15～12:45

学生へのメッセージ

英語と中国語を使って薬学、中国伝統医学、台湾の民間療法、台湾文化などを学ぶ海外研修です。異なる地域や国の薬学、薬事制度、医療実態、言語、文化を知ること、グローバルな世界における日本の薬剤師の立ち位置を知ることにつながり、国際化社会で活躍できる人材として活躍できます。貴重な海外学習機会に、積極的に参加して下さい。

授業概要(教育目的・GIO)

台湾の亜州大学／中国医薬大学／陽明大学／台北医学大学で、中国語語学と薬学の講義・実習・説明を受けるプログラムです。自国の文化や薬学、医療制度と異なる体験をすることにより、自分の将来に生かすことを目的としています。現地において大学では語学と医薬学の授業・実習を英語と中国語で授業・実習・説明を受けるほか、台湾の病院・薬局、製薬会社・中国医薬博物館、伝統文化博物館など、直に台湾の文化に触れ合い薬学、医療実態を体感できる機会を得ることができます。

また、本学の研修生には台湾の大学生がチューターとしてつき、生活面を始め、学業、自由時間を共有します。このことにより、深い交流が図られコミュニケーション能力が向上できます。

別途、旅費・宿泊費等がかかります。

学習目標(到達目標・SBOs)

番号	内容
1	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
2	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
3	人・社会の視点から薬を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。
4	英語／中国語で薬学を理解することができる。
5	米国／タイ／台湾の薬学について英語／中国語で理解し、質問ができる。
6	英語／中国語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
7	英語／中国語での指示を理解し、的確に対応することができる。
8	自分の意見を英語／中国語で表現することができる。
9	英語／中国語で必要な情報を集め、目的を遂行することができる。
10	米国／タイ／台湾と日本の医療保険制度の大きな違いについて述べるができる。
11	世界の医療事情を鑑みて、将来の薬学が果たす役割について討議する。
12	グローバルな視点で薬学を捉えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	学習目標番号
1	喻 静 定本 清美 亀卦川 真美	台湾研修事前説明・学習1	研修前に台湾の医薬実態、文化、研修意義、訪問施設についての説明・学習。	1～12
2	喻 静 定本 清美 亀卦川 真美	台湾研修事前説明・学習2	研修前に台湾の医薬実態、文化、研修意義、訪問施設についての説明・学習。	1～12
3	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習1	受入大学にて英語/中国で薬学研究交流会；病院・薬局・研究施設見学	1～12
4	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習2	受入大学と研究所(国家中医薬研究所)にて英語/中国で薬学研究交流会；伝統医学・医薬博物館見学	1～12
5	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習3	受入大学にて英語で中国語語学勉強；伝統医学、医薬実態・制度の講義	1～12
6	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習4	受入大学にて英語で中国語語学勉強；病院・薬局見学	1～12
7	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習5	受入大学にて英語で中国語語学勉強；薬学研究交流会；	1～12
8	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習6	受入大学にて薬学研究交流会；病院・薬局見学；中国医薬博物館見学	1～12
9	喻 静	英語／中国語による台湾の薬学、文化研修7	製薬会社、台湾文化館・博物館見学	1～12
10	喻 静 定本 清美 亀卦川 真美	英語／中国語による台湾の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習8；SGD & 研修についてのアンケート調査	台湾研修終了後、台湾の薬学、伝統医学、医療実態、医療制度、文化に関するSGD & アンケート調査。	1～12

海外で学ぶ薬学(韓国)

自由科目	薬科学科	1～4年次 後期	1 単位
金 成俊(教授) 高橋 哲史(講師)			

授業形式

C 実習型

評価方法

海外観察記録(80%)、レポート(20%)により総合的に評価する。

テキスト

伝統医薬学、現地で必要教材・資料を配布。

参考文献

オフィスアワー(授業相談)

金 成俊(漢方治療学研究室:E44):研修前後の1ヶ月間、火水の16-18時

学生へのメッセージ

韓国語、英語を使って薬学、伝統医学、医療実態、文化を学ぶ研修です。他国の薬学、伝統医学、医療実態、文化を知ること、将来世界における日本の薬剤師の立ち位置が理解でき、海外交流に活躍できるグローバルな薬剤師として活躍できます。他国の薬学、医療、言語、文化に接する貴重な海外学習に、積極的に参加して下さい。

授業概要(教育目的・GIO)

韓国の慶熙大学校／東義大学校／圓光大学校などで、薬学、伝統医学、医療実態、文化などの講義・実習・説明を受けるプログラムです。自国の薬学、伝統医学、医療実態、文化と薬剤師の在り方を考え、将来に生かすことを目的としています。現地では大学で英語／韓国語で授業・実習・説明を受けるほか、研究室・病院・薬局、文化施設など、滞在国の薬学、伝統医学、医療実態、文化を体感できる見学等が組まれています。別途、旅費・宿泊費等がかかります。

学習目標(到達目標・SBOs)

番号	内容
1	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
2	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)
3	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)
4	韓国語／英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化を理解することができる。
5	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化について韓国語／英語で理解し、質問ができる。
6	韓国語／英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
7	韓国語／英語での指示を理解し、的確に対応することができる。
8	自分の意見を韓国語／英語で表現することができる。
9	韓国語／英語で必要な情報を集め、目的を遂行することができる。
10	韓国語と日本の医療保険制度の大まかな違いについて述べるができる。
11	韓国語の地域における薬局の機能と業務について例をあげて説明することができる。
12	韓国での薬剤師の役割について例をあげて説明することができる。
13	世界の医療事情を鑑みて、将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。
14	グローバルな視点で薬学を捉えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	学習目標番号
1	金 成俊	韓国研修事前学習1	事前に韓国語、韓国の医療実態、文化を学習。	1～14

自由科目

2	金 成俊	韓国研修事前学習2	事前に韓国語、韓国の医療実態、文化を学習。	1～14
3	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習1	受入大学の現地にて韓国語／英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化の講義	1～14
4	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習2	受入大学の現地にて韓国語／英語で薬学、伝統医学、医療実態、文化の講義	1～14
5	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習3	受入大学の学内見学、関連施設の博物館、附属病医などの見学研修。	1～14
6	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習4	大学外の薬局施設見学研修。	1～14
7	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習5	大学外の伝統医学博物館の「ホジュン博物館」見学研修。	1～14
8	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習6	大学外の生薬市場「薬令市」見学研修。	1～14
9	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習7	受入大学の薬学生と、日韓における薬学、伝統医学、医療実態、文化の比較に関するSGD。	1～14
10	金 成俊	韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化学習8	韓国研修終了後、韓国の薬学、伝統医学、医療実態、文化に関するSGD。	1～14